

## 薬味酒のアメ好評

横浜開港資料館



横浜開港資料館で売られている保命酒を使った「保命玉」=横浜市中区日本大通

江戸時代末に来日したペリー提督やハリスが味わつたとされる広島県福山市の保命酒を練り込んだ保命玉が、横浜開港資料館（横浜市中区）で販売され、好評を得ている。「ハリスと横浜展」に合わせた販売で、相次ぐ追加注文に、製造元は「横浜の市民にも大名の献上品に使われた保命酒を知つてもらいたい」と喜んでいる。

4月下旬から受付カウンターの前に商品が並び、現在までに約50個が売れた。品薄になつたため、15日に2回目の追加注文をしたという。同資料館は「予想以上の売れ行き。開催中の限定販売の予定だが、売り上げ次第では販売を延長したい」としている。

保命酒は、本みりんに薬草を漬け込んだ薬味酒。日米和親条約締結時、老中筆頭で福山藩主だった阿部正弘が宴席でペリーーらに振る舞い、「りっぱなリキユール」と話題をさらつたとされる。

「保命酒を全国の人々に知つてもらいたい」と、福山市内の食品会社・中島商店が数年前から、保命酒を使った商品開発を続けてきた。これまでにゼリー・やしょくゆ、ドレッシング、アイスなど約20品を開発し販売している。

**幕末のペリー、ハリスも飲んだ保命酒**